

**主題：**  
**聖書の中の極めて重要な命の啓示**

メッセージ 2

キリストの花嫁が存在するに至る道

聖書：創 2:18-25. ヨハネ 19:34. エペソ 5:25-27, 32

- I. 全聖書は神聖なロマンスです。それは、神がどのように彼の選ばれた民に求愛し、最終的に彼らと結婚するかの記録です——創 2:21-24. 雅 1:2-4. イザヤ 54:5. 62:5. エレミヤ 2:2. 3:1, 14. 31:32. エゼキエル 16:8. 23:5. ホセア 2:7, 19. マタイ 9:15. ヨハネ 3:29. II コリント 11:2. エペソ 5:25-32. 啓 19:7. 21:2, 9-10. 22:17:
- A. わたしたちが神の民として神との愛の関係に入るとき、わたしたちは彼の命を受けます。それは、エバがアダムの命を受けたのと同じようにです——創 2:21-22。
- B. この流れる、造り変える、建造する命は、わたしたちを神と一とならせ、また彼をわたしたちと一とならせます——9-12, 22 節。
- C. 神と神の民が一となるためには、相互の間に愛がなければなりません——ヨハネ 14:21, 23. 出 20:6. エレミヤ 2:2. 31:3。
- D. 神の民が神の言葉の中で神を愛し、時間を費やして神と交わるとき、神は彼の神聖な要素をもって彼らを浸透し、彼らを神の配偶者として神と一とならせ、命と性質と表現において神と同じにします——詩 119:140, 15-16. エペソ 5:25-27。
- II. 創世記第 2 章で、わたしたちはアダムとエバの予表において、キリストと召会の絵を見ます：
- A. アダムは、キリストにある神を予表します。キリストにある神は真の宇宙的な夫であり、ご自身のために妻を捜し求めています——ローマ 5:14. 参照、イザヤ 54:5. ヨハネ 3:29. II コリント 11:2. エペソ 5:31-32. 啓 21:9。
- B. 「エホバ・神は言われた、『その人が独りでいるのは良くない。わたしは彼に、彼の配偶者としての助け手を造ろう』」——創 2:18：
1. アダムが妻を必要としたことが予表し、描写しているのは、神が彼のエコノミーの中で、彼の配偶者また彼の補完（文字どおりには、彼の対）としての妻を得る必要があるということです。
  2. 神、キリストは絶対的に、永遠に完全ですが、彼の妻としての召会がなければ未完成です。
  3. 神はキリストを予表するアダムと召会を予表するエバの両方を持つことを願っています。神の目的は「彼らに……治めさせ」ることです（1:26）神の目的は勝利を得たキリストに加えて勝利を得た召会を持つこと、悪魔のわざに打ち勝ったキリストに加えて悪魔のわざを投げ捨てた召会を持つことです。神はキリストと召会が治めることを欲しています——ローマ 5:17. 16:20. エペソ 1:22-23。
- III. わたしたちは神がご自身のために配偶者を生み出すために何を行なったかを見る必要があります：

- A. 神は、野のあらゆる動物と、空のあらゆる鳥を土から形づくられた。そしてアダムの所に連れて来ました。「こうして、その人は、すべての家畜と空の鳥と野のあらゆる動物に名を付けたが、アダムのために、彼の配偶者としての助け手が見当たらなかった——創 2:19-20 :
1. 妻は命と性質と表現において夫と同じでなければなりません。
  2. 家畜と鳥と動物の間に、アダムは彼自身のための配偶者、彼と一致することのできる者を見いだしませんでした。
- B. 神はご自身のために配偶者を生み出すために、アダムを創造したことによって予表されるように、まず人と成りました——ヨハネ 1:14. ローマ 5:14。
- C. 「エホバ・神が、その人を深い眠りに陥らせられたので、彼は眠った。そして彼のあばら骨の一つを取って、その場所を肉でふさがれた」——創 2:21 :
1. アダムの妻としてのエバを生み出すための彼の深い眠りが予表するのは、キリストの配偶者としての召会を生み出すための十字架上での彼の死です——エペソ 5:25-27。
  2. 聖書において眠りはしばしば死を指します—— I コリント 15:18. I テサロニケ 4:13-16. ヨハネ 11:11-14。
  3. キリストの死は、命を解き放ち、命を分け与え、命を増殖させ、命を繁殖させ、命を複製する死です。それは一粒の麦が地に落ちて死んで、成長し、多くの麦粒を生み出して (12:24)、パンを作ることで表徴されています。そのパンはからだ、召会です (I コリント 10:17)。
  4. キリストの死を通して彼の内側から神聖な命が解き放たれ、彼の復活を通して解き放たれた神の神聖な命が彼の信者たちの中へと分け与えられて、召会が構成されました。
  5. そのような過程を通して、キリストにある神は彼の命と性質をもって人の中へと造り込まれます。それによって、人は命と性質において神と同じになることができ、彼の配偶者として彼に符合します。
- D. 「エホバ・神は、その人から取ったあばら骨を一人の女に建造し、彼女をその人の所に連れて来られた」——創 2:22 :
1. アダムの開かれた脇から取られたあばら骨は、キリストの砕かれ得ない、不朽の、永遠の命を予表します (ヘブル 7:16. ヨハネ 19:32-33, 36. 出 12:46. 詩 34:20)。それは、彼の突き刺された脇から流れ出て (ヨハネ 19:34)、彼の信者たちに分け与えられて、彼の配偶者としての召会を生み出し建造します :
    - a. キリストの脇から出て来たのは血と水でしたが、アダムの脇から出て来たのは血のないあばら骨だけでした。
    - b. アダムの時は、罪がなかったので、血による贖いの必要はありませんでした。
    - c. しかしながら、キリストが十字架上で「眠った」時までには罪の問題がありました。こういうわけで、キリストの脇から出て来た血は法理的な贖いのためでした。
    - d. 血に続いて出て来た水は神の流れる命であり、わたしたちの有機的な救いのためです (出 17:6. I コリント 10:4. 民 20:8)。この神聖な、流れる、非受造

- の命は、アダムの脇から取られたあばら骨によって予表されます（ローマ 5:10）。
2. 創世記第2章22節は、エバは創造されたとは言わないで建造されたと言います。エバがアダムの脇から取られたあばら骨で建造されたことが予表するのは、十字架でのキリストの死を通して彼から解き放たれ、また復活の中で彼の信者たちに分け与えられた復活の命をもって召会が建造されることです——ヨハネ 12:24. I ペテロ 1:3。
  3. 真のエバとしての召会はキリストのすべての信者の中のキリストの総合計です。召会はキリストの複製です。召会の中に、キリストの要素以外の他の要素はあるべきではありません——創 5:2。
  4. キリストの復活と共に彼から出て来るものだけが、彼の補完となり、キリストのからである配偶者となることができます——I コリント 12:12. エペソ 5:28-30 :
    - a. わたしたちは、生けるキリストがわたしたちの霊から表現されることができるまで、すべての天然の命を脱ぎ捨てる必要があります——コロサイ 3:10-11。
    - b. 何であれキリスト以外のものを生かし出すことは召会ではありません。「生きているのはもはやわたしではありません。キリストがわたしの中に生きておられるのです」（ガラテヤ 2:20）。「わたしにとって生きることはキリストであり」（ピリピ 1:21）——これが召会です！
    - c. キリストから出てくるものだけがキリストによって承認されることができます。キリストから出てくるものだけがキリストに戻り、彼に符合することができます。
  5. 聖書の最後には、創世記第2章に示された予表を永遠に成就する、三つの尊い材料で建造された（啓 21:18-21）一つの都、新エルサレム、究極の永遠の女、団体の花嫁、小羊の妻があります（21:9, 22:17）。こういうわけで、予表において創世記第2章11節から12節で述べられている尊い材料は女を建造するためです。
  6. エバがアダムから取られ、アダムに連れ戻されて、彼と一つの肉体となったように（24節）、キリストから生み出された召会もキリストに戻り（エペソ 5:27. 啓 19:7）、彼と一つ霊となります（I コリント 6:17）。夫と妻によって一つの肉体として予表されている一つ霊であるキリストと召会は、偉大な奥義です（エペソ 5:28-32）。
  7. 将来、聖なる花嫁であるキリストはご自身を彼の配偶者としてのわたしたちにささげて結婚させます。それは神がエバをアダムの配偶者であるアダムと結婚させたようにです——27, 31-32節. 創 2:22-24. 啓 19:7-9 :
    - a. エペソ人への手紙第5章27節は花嫁の美しさを啓示して、「しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼 [キリスト] がご自身にささげる」と言います。
    - b. 花嫁の美しさは、まさに召会の中へと造り込まれ、その後、召会を通して表現されるキリストから来ます——26節. 詩 45:9-14。
    - c. 主の回復はキリストの花嫁の用意を整えるためです。彼の花嫁は、すべての勝利者から成っています——啓 19:7-9. 創 2:22. マタイ 16:18。

- E. 「その人は言った、『今度こそ、これがわたしの骨の骨、わたしの肉の肉である。この者を「女」と呼ぶことにしよう。それは、この者が「男」から取り出されたからである』。それゆえに、人はその父母を離れて、その妻と結び合い、彼ら二人は一つの肉体となるのである」——創 2:23-24 :
1. ヘブル語で男は「イシュ (Ish)」であり、女は「イシャ (Ishshah)」です。召会はキリストの純粋な産物であり、召会は「キリスト的」、「復活的」、天的です。
  2. キリストから再生された者たち、また召会としてキリストによって生きる者たちだけがキリストに符合し、補完することができます。
  3. キリストがこれを見るとき、彼はきつと言うでしょう、「今度こそ、これがわたしの骨の骨、わたしの肉の肉である」——参照、23 節。エペソ 5:30。
  4. エバがアダムの増し加わりであったように、花嫁としての召会は花婿としてのキリストの増し加わりです——ヨハネ 3:29-30。
  5. アダムとエバが一つの肉体、完全な一つの単位となったことは、神と人が結合されて一つになることの象徴です。来たるべき新エルサレムは神と人の永遠の結合、神性と人性から成る完全な一つの単位となります——参照、創 5:2。
- F. 一であるアダムとエバは夫と妻として共に結婚生活をしました (2:24-25)。これが描写するのは、新エルサレムにおいて、手順を経て完成された宇宙的な夫としての贖う三一の神は、贖われ、再生され、造り変えられ、栄光化された妻としての人性と共に永遠に結婚生活をするということです :
1. 肉体と成ること、人の生活、十字架、復活、昇天の過程を経過し、最終的に命を与える霊と成った三一の神は、創造され、贖われ、再生され、造り変えられ、栄光化された、霊と魂と体という三部分から成る人と結合されて結婚しますが、彼らが神の表現である召会を究極的に構成します。
  2. 終わりのない永遠において、彼らは神聖な、永遠の、超越して栄光な命によって、神と人がミングリングされて一つ霊である生活、祝福と喜びにあふれた極上の生活をするでしょう。